

第7表 地区区分による諸要素の整理

(ひじりやま1) 聖山1	○概要 ・地名「用害」の北東部。
	○本質的価値を構成する要素 ・大きく2つの曲輪（I a・I b郭） ・I a郭北東に切岸・堀（ア・イ） ・I a郭及びI b郭の東側に全長約200m、最大高約10mの切岸（ウ） ・I a郭とI b郭の間に削り残しの土橋（エ） ・発掘調査によりI a郭に柱穴列の検出、常滑甕の出土 ・発掘調査によりI b郭に柱穴とみられる布掘状ピットの検出、貿易陶磁器（青磁・白磁・染付）とかわらけの出土 ・I b郭の出土遺物は、16世紀に位置づけられる ・後北条氏の領地であった三浦半島まで望める眺望
	○地区の評価 ・周辺に細かい曲輪があることから城の主郭として使用か。 ・物見台としての建物の存在が想定されている。 ・北側先端部は監視所としての役割か。 ・貿易陶磁器やかわらけが出土していることから、儀礼行為を行う場として使われた可能性がある。
	○その他の諸要素 ・I b郭は、一部が里見公園となっている。 ・里見公園北側に石造物がある。
(ひじりやま2) 聖山2	○概要 ・地名「用害」東部。 ・主郭を取り囲む腰曲輪群を含む一帯。
	○本質的価値を構成する諸要素 ・I c郭と西側に延びる腰曲輪 ・堀（カ）によって大きく3つに分かれる腰曲輪（II a・II b・II c郭） ・II a郭の最大幅は約25m ・西側の岩盤を曲輪の造成に伴って、切岸（ウ）としての機能を持たせている ・V a郭に続く堀切（キ） ・城郭縁辺部の腰曲輪（III郭） ・腰曲輪を築く時に掘り残された土塁（ソ・タ） ・幅25mの空堀（チ） ・発掘調査によりI c郭に人為的な整地層と掘立柱建物、溝もしくは土坑の一部が検出、陶磁器、銭貨、鉄製品やふいごの羽口が出土 ・発掘調査により焼土が検出
	○地区の評価 ・ふいごの出土から鍛冶工房の存在の可能性。 ・広い平場のため屋敷地とも考えられる。 ・焼土層の出土から「国主御殿」（義康の御殿）候補地として上げられる。常御殿というより儀礼の場か。
	○その他の諸要素 ・幅広い平場を利用したビワ栽培が行われている。 ・北側に、創建時期不明の神社と堂が建立されている。

(ひじりやま3) 聖山	○概要 ・聖山1、2区の東側に広がる通称「聖山」の北側部分。 ・城の外郭に相当する地区。
	○本質的価値を構成する要素 ・旧地形を利用した帯状曲輪(Ⅳ郭) ・枝尾根先端を掘り残し、堀切状になった虎口(ク) ・小面積の腰曲輪2か所からなる4～5人配置できるほどの出丸的施設(ケ)と対面に造られた全長約300mの切岸(コ) ・尾根を分断する堀切(ス) ・尾根を分断する正方形に近い方形プランの深い水堀(通称「榊ヶ池」)(セ) ・石塁状遺構(ツ) ・発掘調査により環状礫集中、整地層、堀と土塁が検出 ・「榊ヶ池」の伝承 ・「愛宕大権現」の伝承
	○地区の評価 ・里見氏が居城するようになってから、防御性と収容力を高めるために、新たに造成されたと考えられている。 ・愛宕大権現があったという伝承から、信仰の場として使われていたことが想定される。
	○その他の諸要素 ・「里見公遺愛の松の碑」が建てられている。 ・平場はビワ栽培がおこなわれている。 ・ソテツやマテバシイが植えられている。 ・帯状曲輪付近で養蜂が営まれている。 ・東西にわたって農道が通っている。 ・ビワ運搬用のレールが敷設されている。 ・農道沿いに防空壕が開口している。
(おおやつ) 大谷	○概要 ・「聖山」の南側部分。 ・城の外郭に相当する地区。
	○本質的価値を構成する要素 ・聖山の丘陵尾根端部を利用した小曲輪群か ・尾根先端に造られた切岸(サ)及び堀切(シ)
	○地区の評価 ・里見氏が居城するようになってから、防御性と収容力を高めるために、新たに造成したと考えられている。
(なかのだい) 仲ノ台	○概要 ・聖山に取り囲まれている谷部分。 ・昭和年間まで「中ノ台」の字名が確認。
	○本質的価値を構成する諸要素 ・全体が曲輪として位置づけられる平場(V郭) ・梅王丸が幽閉されたという伝承

(なかのだい) 仲ノ台	○地区の評価 ・ 聖山に囲まれ、見通しが利かないことから、一族や直臣層の屋敷地や戦時の避難場所と考えられる。
	○その他の諸要素 ・ ビワ運搬用のレールが敷設されている。 ・ 平場でソテツが栽培されている。 ・ J R内房線が地区を縦断している。 ・ 宅地が多い。
(にいじゆく) 新宿	○概要 ・ 山頂部と山腹部の南麓に位置する、地名「新宿」の北東部。
	○本質的価値を構成する諸要素 ・ 平面プランがほぼ方形で、沖積地に張り出す曲輪 (V a・V b 郭) ・ 発掘調査により人為的な整地層が確認
	○地区の評価 ・ 過去の評価では、里見氏の居館跡と推定されていたが、発掘調査では遺構の検出や遺物の出土がみられなかったため、今後検討が必要である。
	○その他の諸要素 ・ 平場はビワの栽培が行われている。 ・ 中央には学校寮が建っている。
(きで) 木出	○概要 ・ 海に面した丘陵尾根の先端部。
	○本質的価値を構成する諸要素 ・ 階段状の曲輪群 (VI a 郭) ・ 切岸整形 (ト) ・ 土塁と豎堀 (オ・テ) ・ 観音堂の伝承 ・ 「木出」地名 ・ 16世紀代に位置づけられる五輪塔の一部
	○地区の評価 ・ 観音堂があったという伝承から、信仰の場として使われていたことが想定される。 ・ 細い曲輪の造成は、主郭の防御強化のためか。 ・ 宮ノ台地区の大宮八幡神社と対になるように立地していることから、今後民俗学的検討が必要。
	○その他の諸要素 ・ 直下に逢島隧道が通っている。
(ようがい) 用害	○概要 ・ 木出地区、宮ノ台地区に囲まれた範囲。
	○本質的価値を構成する諸要素 ・ 元禄地震以前の標高は約3～4m
	○地区の評価 ・ 港として機能していたと考えられる。 ・ 浜については今後検討する必要がある。
	○その他の諸要素 ・ 国道127号が南北を通っている。 ・ 宅地が多い。 ・ 民宿が営まれている。

(みやのだい)	○概要 ・海に面した丘陵尾根の先端部。
	○本質的価値を構成する諸要素 ・山上にある曲輪（VI b・VI c 郭） ・曲輪（VI b・VI c 郭）と尾根先端部を結ぶ通路（ナ） ・発掘調査によってピットが検出され、かわらけと常滑甕が出土 ・大宮八幡神社が所在。
	○地区の評価 ・ピットが検出され、周辺からかわらけや天目茶碗が出土していることから、この平坦面一帯が儀礼の場だった可能性が想定できる。 ・「岡本御西様」（梅王丸か）の居住した可能性。 ・大宮八幡神社が立地していることから、信仰の場として想定される。 ・中世から近世初頭の文書にみられる「八幡宮」、「大宮明神」か。
	○その他の諸要素 ・大宮八幡神社が立地している。 ・宅地が多い。

第8-1表 城郭周辺の本質的価値を構成する諸要素の整理

本質的価値を構成する諸要素	神社・寺院	・海禅寺・満蔵寺・正覚寺・全昌寺・法華寺（法花寺）・興禅寺・長泉寺・西方寺・光厳寺・愛宕神社（正善院）
	地名	・久保・木出・仲ノ台・成陽・大谷・用害・聖山・澤又・澤亦・坂口・宮ノ台・新宿・田宿・田島・作田・西鞍掛・鞍掛・関田 など
	人名	・岡本・川名・本田・角田・山本・安田・忍足・加藤
	古文書	・金龍山再興記・長泉寺寄進状・里見分限帳
	彫刻	・岡本元悦位牌・木造十一面観音立像（伝 鶴姫の観音様）・長泉寺大黒天像
	石造物	・里見義頼の墓・青岳尼供養塔・周辺寺院の五輪塔や宝篋印塔
	海	・港・海上交通・水軍の存在
	河川	・汐入川・豊年川・岡本川
	地形・地質	・港を取り込んだ構造・旧地形・凝灰岩質の加工しやすい地質
	歴史的景観	・古道・城下の地割
	城・砦	・宮ノ台遺跡
やぐら	・坂本やぐら・和田横穴群転用やぐら・金毘羅様やぐら・和田横穴群転用やぐら・青木やぐら	

第8-2表 城郭周辺の本質的価値を構成する諸要素の整理

その他の諸要素	神社・寺院	・年代不詳な神社・寺院
	植生	・ビワ・ソテツ・ハラン・マテバシイ
	気候	・温暖多湿な海洋性気候
	生態	・スズメなどの鳥類の生息 ・イノシシやアライグマなどの有害鳥獣の生息
	道路	・国道127号・旧道・市道・法定外道路
	鉄道敷地	・JR内房線・富浦駅
	宅地	・民家・民宿
	学校	・市立富浦小学校・市立富浦中学校 ・筑波大学附属小学校学校寮・東京学芸大学附属大泉小学校学校寮
	農業	・田畑・水田・各種果樹栽培 など
	官公庁	・市役所